



内容見本

はな☆オウケ

萌えぎのエレン・著

☆ 目次

☆	はじめに.....	4
☆	インターネットの登場.....	4
☆	インターネットが苦手.....	5
☆	ブログ以前.....	5
☆	はてなに移った.....	7
☆	はてなキーワード.....	8
☆	はてなブックマーク.....	10
☆	Web2.0.....	13
☆	はてな村とは.....	14
☆	はてなとハロプロファン.....	15
☆	はてなブックマークを使わない.....	17
☆	アイドルファンはオタクなのか.....	18
☆	はてなにはオタクが多い?.....	20
☆	オタクはすでに死んでいるという.....	20
☆	なぜはてなは居心地がいいのか.....	21
☆	あとがき.....	23
☆	はてなの沿革.....	25

たまにインターネットで書かれている「コンテンツは話題作りのために存在している＝中身そのものはどうでもいい」のような最近の俗説を読むたびに「どうでもいいわけないだろう」と思うのです。

だけど実際には、例えばぼくはハロプロ(ハロー！プロジェクト)のファンなのですけれど、アイドルである彼女たちさえいけばいい(ただ観賞するだけでいい)というだけでもなく、このぼくがネットで何かを考えた感じたことを書くことが重要なのだと、感じる自分もいるのです。

☆ はじめに

ぼくは、はてな(株式会社はてなが提供するウェブサービス)でブログを書いています。最近ツイッターばかり書いていますが、基本的にホームははてなですし、やめるつもりはありません。ハロプロメンバーのブログをチェックするのに都合がよいのでアメーバやグリーのアカウントも持っていますが、そこでブログを書くことは、まずないでしょう。

ところでぼくは、ネットを始めた当時、ネットというものを信頼していませんでした。信頼していないは大げさですが、あまりいいものだと思っていなかったのです。ネットがいいものだと感じ始めたのは、はてなを利用するようになってからでした。

はてなは、他のウェブサービスと比べて、多少くせが強いかもしれません。それもあって、はてな内部のコミュニティには独特の雰囲気があります。揉め事のようなこともたまにみられますが、ぼくにとっては概ね良好な場所であり、はてながきっかけで知り合えた友人も多いです。

そして、はてなを居心地がよい場所だと感じるのは、オタク的な何かを引き寄せるちからのようなものがあるのだろうと考えることがあります。この本では、そのようなことを含めて、ぼくがインターネットをどうとらえているかについて書いてみたいと思います。

☆ インターネットの登場

ぼくがインターネットを使い始めたのは、1999年くらいでした。アニメが好きだったけどいったん離れて、エヴァのブームで復帰して、ナデシコ、ウテ

ナ、アキハバラ電腦組と見てきて、またアニメから離れて、モーニング娘。のファンになってしまった。その頃だったと思います。

実はパソコン通信はやっていませんでした。そういうものがあることは知ってはいましたが、知り合いでもない人間と話しをするという面白さがわからなかったし、何か怖いものを感じていました。それでもやがて、インターネットという面白いものがあるらしいという、テレビや雑誌の宣伝に乗るかたちで、ぼくは何となく興味を持ちました。アップルの一番安い機種を買って、ぼくはネットというものに入っていました。

☆ インターネットが苦手

ところが、最初ぼくが感じたのは、意外とチープだなというものでした。動画や音声のようなウェブキャストが普及していなかったからという意味ではありません。ぼくが見たページが、ことごとくつまらなかったからです。

どうつまらなかったのか、よく覚えてはいないのですが、たぶんそれは、ぼくの検索能力の低さが理由だったのだと思います。ぼくは今でも、検索がどうもうまくいかないのです。「苦手科目はネット検索」と言ってもいいでしょう。

それと、ぼくがネットを始めた頃に「電子メールからウィルス感染するから危険」のようなニュースがあったので、それを鵜呑みにして、メールそのものを敬遠していた感覚もありました。今でもメールのやりとりで臆病なところがあります。面倒だから電話で話したいのに、それをわざわざ文章で書かなければならないし、誤解があったらどうしようと、今でも怖いです。昔に比べたらだいぶましになったとは思いますが、ネットが苦手というのは、誰もが当たり前にやっている、検索やメールというものが、どうも上手くいかないということでした。

☆ ブログ以前

当時、ヤフーに登録されていたページは、ぼくにとっては、どれも退屈なものでしかなかったし、ほかに探す方法を知りませんでした。そもそもぼくは、他人の書く文章にあまり興味がなかったのです。読書も嫌いですし、人に興味がなかったのかもしれない。それは、ぼく個人の病理なのかもしれません。

せんが、今回はその辺はパスします。

インターネットというものがあると知ったときに、ぼくは、とにかく自分のホームページを作りたいと思いました。読みたいというよりも作りたい、とにかく文章を発表したいという思いのほうが強かったのです。だから、プロバイダーを探すときは、無料で自分のページをどの程度(容量など)作ることが可能か、BBSの有無などを基準に選びました。探すのが得意じゃないぼくでも、そこはきっちり調べました。

とにかくぼくは、他人のページをろくに見もしないで自分のページを作ることに没頭しました。エヴァやアキハバラについて書きたいことはいっぱいあったし、「とにかく俺に言わせろ」のような生意気な感じでした。マークアップ言語の参考書を買ってきて、でたらめな CSS を書いてページを作っていました。ウェブページを作るには、マークアップ言語を自分で書く(コーディングと呼ばれる作業)か、それを自動でやってくれる専用のソフトを買ってこななければならなかったし、アップロードするソフトも必要でした。ブラウザさえあればいつでも更新できるブログに比べて、はるかに手間も時間もかかるものでした。だけどぼくは、自分で情報を発信できることがとにかく嬉しくて、夢中で更新していました。大した内容ではありませんでしたし、一日当りのアクセスもゼロかそうでないか、程度のものでした。今から思えば、他人の作ったものをちゃんと読んでいれば、多少もっとましなものを作れたのではないかと、とも思います。

当時ぼくは、何か文章を書く前に、興味のある人名や作品名や専門用語などのキーワードページを作り、自分の書いた文章の単語(「エヴァ」「安倍なつみ」など)からそのキーワードページにリンクする、だから文章がリンクだらけというようなページをアップしていました。リンクの数が多くてびっくりした(読みづらい)というコメントを頂いたこともありました。

つまり、はてなダイアリーのようなことを自分でやっていました。だけど、限界を感じていました。モーニング娘。のキーワードページを作るとなれば全メンバーのキーワードも当然作るのだけれど、さほど思い入れのないメンバーも正直いまして、その誰々については、ぼくなんかよりもはるかに思い入れの強くて詳しいひとが書くほうが絶対よくなるはずだと感じていました。

だから、はてなキーワードの存在を知ったときに、これは優れたものだ

狂喜しました。ぼくがはてなに移るのは、もはや時間の問題でした。そしてぼくは、ネットで知を共有する「Web2.0」の世界に踏み込んでいったのです。

☆ はてなに移った

自分でページを作っていたときに、ある時期から、<http://a.hatena.ne.jp/> (はてなアンテナのアドレス)からのアクセスが増えてきました。はてなアンテナとは、ユーザーが登録した複数のウェブページのリンクを、新しく更新されたものから順にリンク先の更新内容とともに表示するウェブサービスです。ぼくはそれまで、RSS も知らなかったし、そのような「動的」なウェブをみて、これは何か面白いことが起こっていると、遅ればせながら感じました。

はてなアンテナからのアクセスが増えたのは、モーニング娘。のことについて書くようになった頃です。だからぼくは、はてなを使うモーニング娘。のファンが多かったように感じたのです。はてなアンテナを使うモーニング娘。ファンは、はてなダイアリーも書いていて、それらのブログを読むために、まづぼくは、はてなアンテナから使い始めました。

アクセス解析がきっかけで、はてなアンテナ、そして、はてなダイアリー(ブログ)の存在を知ったぼくは、それでも最初はブログに移行することをかっこ悪いと感じていました。それは、ウェブページのデザインを含めて自らがすべてを作ることから生まれるプライドのようなものがあつたと思います。ブログとは既存のデザインだから、ただの日記でしかない。自らコーティングを行うような者にとっては物足りないのです。小学生でももっと凝った作りにするだろう程度の単純なページ構造で、しかも誰も読まないようなページを作っていたぼくでさえも、当時はそのように感じていました。

ですが、モーニング娘。ファンで名前を知っているひとがはてなを使ってブログを書いていることを知り、ぼくもはてなでブログを開始しました。もともとブログには興味はなかったのですが、同じ仲間と感じたファンがいるはてなだからこそ、ぼくはブログに移行したのです。だから、はてな以外のブログを書くことは、まったく考えられませんでした。

やがてぼくは、自分でホームページを作をやめてしまいました。先ほど書いたような「こだわり」は、割と簡単に忘れてしまったのです。簡単に

更新できるブログを始めたことで更新回数が増えましたし、ID (はてなユーザーごとのアカウント) でつながるはてなの仕組みや、そこでのやりとりは、以前よりも圧倒的にぼくの活動範囲を広げたのです。

☆ はてなキーワード

現代用語の基礎知識には、その年ごとの流行語として「はてなキーワード」から、いくつかの内容が掲載されています。この、はてなユーザーが自由に登録し内容の加筆修正が行える「はてなキーワード」は、インターネット時代の新たな情報発信基地となりました。

はてなダイアリーが他のブログと異なるのは、はてなキーワードへの自動リンク機能です。はてなキーワードがもともと「はてなダイアリーキーワード」という名称だったことからわかるように、はてなダイアリーとキーワードは一体のものとして密接に連携しています。

はてなダイアリーでは、日記を書き公開すると、文中の特定の語句が自動的にはてなキーワードのページへとリンクされる機能があります。普通、ウェブページの文章中から他のページへリンクさせるときにはマークアップ言語にて記述します。ブログであっても URL を文章のなかに入れるというように、リンクとは書き手によって意識的になされるものです。ところが、はてなではキーワードへのリンクとは、なかば強制的に生成されるもので、出来上がった文章はリンクだらけになります。はてなでブログを書き始めるときに、多くのユーザーにとっては違和感があつたのかもしれませんが。

それとは意識せずに書いた文章のなかにも、事件やニュースに関するものやタレントの名前など、話題となるキーワードが含まれているような場合、そのキーワードからのリンクが集中します。これは、個々のはてなキーワードのページに、誰が(どのはてなダイアリーが)そのキーワードに言及したのかという表示がなされるからです。そして、こちらからもキーワード経由で他のはてなダイアリーを読んでみようという好奇心も生まれてくるのです。それがきっかけで(同じようなことに興味を持つ)他のはてなユーザーと知り合いになることもあります。また、本人にとって「常識」となっているために書き手自身が気づかずに書いてしまう、いわゆる隠語などを含むマニアックな専門用語の解説にもなり、そこから、違う世界を知るきっかけにもなります。